



藤井脳神経外科病院
〒329-1105 栃木県宇都宮市中岡本町 461-1
電話：028-673-6211（代）
FAX：028-673-2115
E-Mail：fujiihp@apricot.ocn.ne.jp
ホームページ：http://www.fujiihp.or.jp/

診療時間

○ 診察可 × 休診

診療時間		月	火	水	木	金	土
9:00～12:00 (受付 8:30～11:30)	初診	○	○	○	○	○	○
	再診	○	○	○	○	○	○
14:00～17:30 (受付 13:30～16:30)	初診	○	○	×	○	○	×
	再診	○	○	×	○	○	×
休診		水曜日・土曜日の午後、日曜日、祝日 *急患は24時間対応します。					

外来担当表

	月	火	水	木	金	土
午前	鈴木 博子	國峯 英男	國峯 英男	藤井 卓	國峯 英男	鈴木 博子 (第1・3・5週)
	* 淀縄 昌彦	鈴木 康隆	鈴木 康隆	鈴木 博子	鈴木 博子	* 坂本 和也 (第2・4週)
	* 坂本 和也	鈴木 博子	* 浅田 英穂 (第1・2・4・5週)	* 大橋 康弘	* 淀縄 昌彦	* 滑川 道人 (神経内科)
	* 交代制		* 自治医大	* 獨協医大		* 交代制
午後	* 淀縄 昌彦	西田 舞 (内科)	休診	* 大橋 康弘	* 淀縄 昌彦	休診
	交代制	* 獨協医大		* 獨協医大		

上記の担当は、都合により変更となることがあります。

* 非常勤医師



藤井脳神経外科病院 地域連携ニュース



2023 年 1 月号

年が改まりました。今年もよろしくお願いします。

新型コロナウイルスと人類の戦いは4年目に入りました。団塊の世代がすべて75歳になる2025年まであと2年となり、少子高齢、人口減少の中での働き方改革、子育て支援策などが予定されています。救急や入院医療を担う病院では時間外勤務への取り組みも急がれます。大学病院勤務医師の勤務時間制限が強まれば、人手不足による地域医療崩壊が懸念されます。地域の救急医療への影響も重大なものとなりましょう。

私たちは、脳神経外科専門病院として地域医療を担い続ける覚悟でいます。その役目を果たすべく、時間外労働の適正化に向け、労働基準監督署との打ち合わせも行っているところです。

昨年、病院機能評価受審や電子カルテの乗り換え作業などの峠を越えてきました。本年は第26回日本臨床脳神経外科学会を7月に主宰する立場になりました。連携ニュースではあまり扱って来なかった学会活動の一部を今回は載せてみました。紙面の都合から、散漫な記事となっていたらお許しください。

理事長 藤井 卓

● 臨床検査室よりご挨拶

平成元年の開院から臨床検査技師は救急医療チームに関わり、夜間・休日の24時間オンコール体制としています。常勤3名で毎日オンコール当番を廻していくのは大変ですが、臨床検査技師の仲間と当院の理念でもある「支えあい」・「分かち合い」をモットーに頑張っています。昨年は栃木県知事より救急医療功労賞の表彰を頂き、小さいながらも一つの実を結ぶことができました。

臨床検査室は検体検査（血液、生化学、血清、尿、細菌）・生理検査（心電図、ホルター心電図、脳波、エコー）などを主に行っております。それに伴い、正確な結果報告をなるべく早く出せるよう精度管理や機器のメンテナンスなどの業務を遂行しています。

仲間と切磋琢磨しながら日々努力していくのは、仕事ではありますが、楽しい事なのかもと、最近思うようになりました。患者さんや家族に寄り添った思いやりのある検査室をこれからも継続して行きたいと考えております。（臨床検査室長 石塚仁美）

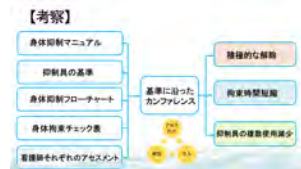


脳神経外科医療のトピックス（24）



一般口演

「脳神経外科患者への身体拘束時間短縮のための看護実践とその効果」



看護部 青木

「リハビリスタッフによる入浴介入とその有効性の検討」



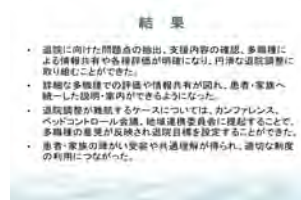
リハビリテーション室 梅岡

「食道裂孔ヘルニアを有する心原性脳梗塞に対し多職種介入により自宅退院できた一症例」



栄養室 箕輪

「回復期リハビリテーション病棟における MSW の役割～PDCA サイクルによる多職種連携～」



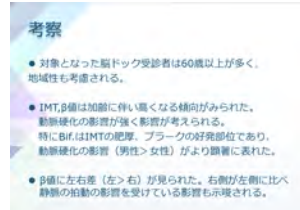
地域連携室 渋谷

「持参薬配薬シートを用いた持参薬管理の取り組み」



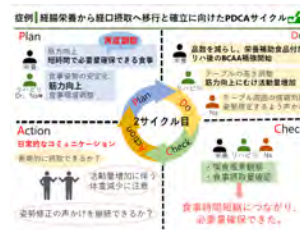
薬局 鱒淵

「脳ドック頸部エコーの計測値の集計」



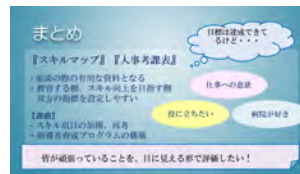
画像室 二本柳

「多職種連携によるリハビリテーション栄養の取り組み」



栄養室 菅又

「医事課におけるラダー制度の導入を考える」



医事課 秋場

「人事確保と職場環境の改善」



総務課 高野

お知らせ

次号は、当院主幹となる第 26 回臨床脳神経外科学会開催に向けて、会の詳細の発信を行います。ぜひご参会ください。

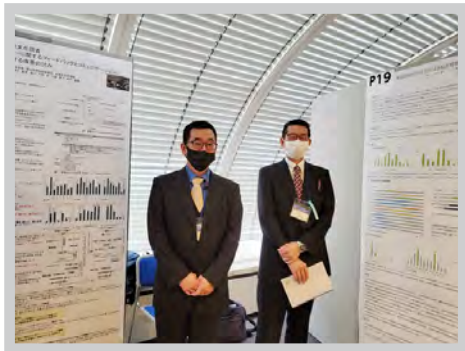


2022 年 11 月に神戸において開催された、第 25 回臨床脳神経外科学会に参加しました。

脳神経外科の専門的な講演は、最先端治療を含め非常に興味のある内容でした。一般口演では多職種からの発表があり、それぞれの地域病院における問題点や課題など、当院も共感し参考になる演題内容が多くありました。

以下、当院からの発表内容一部抜粋です。

診療部においては、医療安全など日々の業務改善に繋がる検討や、他部署と協力しチーム医療を行う連携強化の演題を出しました。また、事務部の発表を行う上で、採用や人事考課、またコロナ禍での病院における対策などについて再考慮する良い機会となりました。



ポスター掲示

「エラーに関するフィードバックとコミュニケーションに対する改善の試み」

リハビリテーション室 医療安全管理者 丸山

医療安全文化は医療に従事する全ての職員が、患者さんの安全を最優先に考え、その実現を目指す態度や考え方およびそれを可能にする組織のあり方であり、そのような組織文化を醸成することで医療の質・患者さんの安全性の向上を図ることを目的とする。

当院の取り組み

- ① ヒヤリハットレベルでの報告件数の増加を目的とした教育の促進と、報告後の確認の周知
- ② 所属長へのコメント記載と報告者への労いの推進
- ③ 医療安全情報の発行と医療事故防止ポケットマニュアルの更新



「脳血管疾患患者の転倒と FIM 認知項目の関係性」

リハビリテーション室 山中

当院回復期リハビリテーション病棟に入院した脳血管障害患者において転倒転落報告のあった 105 名 /2 年間を対象とし、転倒直前 FIM 総得点、FIM 運動項目得点、FIM 認知得点の分布状況、FIM 各項目の最頻値、転倒発生場所、時間帯、発生時期により転倒患者の特徴について調査した。

FIM 総得点 90 点未満、運動項目得点 60 点未満の患者、理解・表出・社会的交流に比べ問題解決・記憶の点数が低い患者に転倒が多く、入棟後 30 日以内が最も多かった。

これらをもとに転倒予測を立て多職種共有を図り、事故防止に努める。